



令和7年度  
新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会住民大会  
飯豊大会



◆大会概要

- ・とき 令和7年10月25日(土)午後1時30分～午後3時30分
- ・ところ 山形県飯豊町 町民総合センター（山形県飯豊町大字）
- ・参加者 約350人

《出席国会議員》

衆議院議員 菊池大二郎氏、原田和広氏、遠藤利明氏(代理)、鈴木憲和氏(代理)

参議院議員 舟山康江氏(代理)

○基調講演

演題 「道路行政をとりまく最近の話題」

講師 国土交通省道路局企画課 道路経済調査室長 依田秀則 氏

○意見発表

○大会宣言

◆主催 新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会

構成市町村

【新潟県側】 新発田市、村上市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村

【山形県側】 米沢市、長井市、南陽市、高島町、川西町、白鷹町、飯豊町、小国町

(各市町村長、議長、商工団体の長が会員)

【事務局】 山形県小国町役場地域整備課 ☎0238-62-2431 FAX0238-62-5464

## ○基調講演内容

講師：国土交通省道路局企画課 道路経済調査室長 依田秀則 氏



昨日から山形に入り、今日は朝から国道113号の新潟県境まで案内してもらいました。道路に沿っていくつかの市町村がつながっていて、社会経済活動をされる上で、近隣の市町村を行き来しつつ、そういった移動をされるにあたり、非常に重要な道路であること、新潟県境付近は川が横に流れ非常に険しい地形になっていて、工夫をしないとルートはなかなか決まらないこと、また、冬になると相当の雪が降って、不便さを感じながら道路を使っていることを強く感じました。

今日は予算や制度、皆さん方からの支援の必要性について説明をさせていただきます。

はじめに国の公共事業予算は、平成26年以降ずっと横ばいで、まったく増えていない状況です。一方で、年度途中で編成される補正予算と、令和から始まった国土強靱化の予算を合わせると、近年は少し増えてきている状況です。そういった意味でも、今から冬にかけて編成される補正予算、非常に重要だと感じています。いろいろな経済活動の生産性を上げるための道路整備が大事だという声を是非上げていただきたい。

最近の国土強靱化予算は、毎年維持修繕が伸びていて、平成20年から比べると令和7年は1.8倍、一方で、新しい道路を造る改築費等は減っていて、平成20年比で令和7年は0.6倍となっています。また、労務単価の上昇、資材価格の高騰により、建設工事デフレーター（同じ工事をした場合の費用）が、平成27年を100とすると、令和5年は123.3であり、工事量はほぼ2割減ということになっています。さらに、一つの事業が終わるのに、20年くらいかかるようになっていきます。しっかり予算を確保することが、新山道の早期完成には重要ではないかと考えているので、予算確保の面でも支援をいただきたい。国土強靱化計画は、令和8年度から12年度までの5カ年で、20兆円強の予算規模であるが、25兆円ぐらいまで目指すのではないと言われる方もいる。これとは別に、近年の資材価格や人件費高騰の影響については、別途予算の編成を考慮すると書いてあり、道路は、ネットワーク強化と老朽化対策のほか、積寒対策、雪対策という新しくメニューも加えられているので、是非ご活用いただきたい。

高規格道路は、時速60km以上のサービス速度（1時間で60km走れる）を目指そうという概念で、広域圏内の広く長い移動を支援する道路や、地域間連携を強化する道路がありますが、113号は後者ではないかと考えています。定住自立権構想では、置賜地区は米沢を含めた圏域を構成していて、その中を東西に貫くような113号はまさにこれに相当すると考えています。つながっていないところはこれからやっつけなければいけない道路であり、今回の大会が、促進をといるところでありますが、いかに早く整備できるかということがポイントになってきます。皆様のいろいろな声の上がり方もありますし、必要性の整理、私も今回走ってきましたので、この道路の必要性を強く感じました。走ったことのない方に説明し理解いただかなければいけませんので、いかにこの必要性を訴えられるかが今後のポイントになるのではないかと考えています。60kmのサービスレベルを確保するといった時に、自動車専用道路で作るケースのほか、副道といわれるアクセス用の道路を入れることによって、立体的な構造にしなくても速度を担保するような構造があり、非常に安く早くできるというメリットもあります。また、スピードを出せない重たいトラックや、安全に走行されたい地域の方、急いでいる方が、二つの車線で分かれて走行できる追い越しできる構造を少し入れることで、60kmの速度を担保する方法もあります。いろいろな方法で、皆さんが求める機能を確保しながらそれをどれだけ早く整備できるかというところを求めていきたいと考えています。

インフラの老朽化について、2040年頃には、橋梁の75%、トンネルの50%が、建設から50年以上経過します。平成26年、笹子トンネルの崩落事故が起きてから、いろいろルールを変えましたが、5年に1回必ず点検をさせていただいていることで、新たに痛んで修繕しなければいけないものもありますが、悪いものが減ってきています。老朽化対策は非常に大事で予算もかかりますが、新しい技術であったり、これから作る道路はなるべくメンテナンスのコストがかからないような構造にしていくなどの工夫が必要です。全国的に、全体の予算が100あるとしたら60くらいが維持管理になっていて、新しい投資に使える金は限られている状況です。老朽化対策の予算を抑えていく工夫を今後是非していきたいと考えています。

最後に、この道路は、防災、裏を返せば通行止めにしたくないことが一番重要なのではないかと感じました。この道路が通れなくなった時に、月山を超えて酒田を迂回する、磐越道で迂回する方法しかなく、いかにこの道路の信頼性、通行止めにならないような強固な道路にしていくかが基本になってくる。令和4年の豪雨の時も50時間以上止まってしまったことによって、地域にどういう問題が生じたのか。例えば、トヨタの方は、部品を毎日運んでいないと車が組み立てられないので、年に何時間か止まるような道路は部品の経路としては使わないという話を聞いたことがあります。通行止めになると何が困るかというところを、是非、首長の皆様には、東京に要望に来ていただく際に、地域の感じている部分として、通行止めによる影響がこの地域の社会経済に悪い影響を与えていることの事例を、PRしていただきたい。

## ○意見発表内容

### 【山形県飯豊町】 いいでカヌークラブ 代表 堀江守弘 氏



私は飯豊町の白川湖を拠点に、カヌーや自然体験ツアーを通じて、山形・飯豊の魅力を県内外、海外へ発信しています。この地域は、春に白川湖の「水没林」が姿を現し、湖面に立ち並ぶ木々が鏡のように水面に映る幻想的な風景が広がります。今週発表された「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に、日本から唯一、山形県が選ばれ、飯豊町の白川湖カヌーツアーも注目の体験として挙げられています。最近海外からの問い合わせが急激に増え、世界が求める新しい日本の原風景として期待されています。

一方、アクセスの不便さは、観光客にとっての心理的なハードルであり、国道113号の整備や、案内表示の改善により、観光客が安心してこの地域を訪れることができ、地元の暮らしや物流にも大きく貢献します。自然災害による通行止めなどは、日々の生活や観光の受け入れに大きな影響を及ぼし、安全対策等の重要性も強く感じます。リピーターとして足を運んでくださること、地域のファンや関係人口が増えていくことは、これからの地方にとって欠かせない流れです。白川湖を訪れた方が、足を延ばし、広域的な経済循環を生み出していくためにも、「行きたいけれど行きづらい」をなくすことが大切です。

道路整備は、地域の未来を支える最も重要な投資であり、私たちは、この美しい自然と、ここで暮らす人々の誇りを、次の世代へつないでいきたい。飯豊大会の声を、今後の施策にしっかりと反映いただき、住民と行政、そして国が一体となり、この地域の可能性を切り開いていくことを心から願っています。

### 【山形県飯豊町】 一般社団法人飯豊町観光協会 事務局長 二瓶裕基 氏



飯豊町観光協会は、飯豊町の豊かな自然と文化を活かした体験の提供や新観光商品の開発、国内外へのプロモーション活動を通じて、地域経済の活性化と精神的な豊かさを追求する「観光地域づくり」に日々励んでいます。この度「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に「山形県」が選出され、新たなインバウンドの入込が期待されます。

国道113号線は、事故などが発生すると、地域生活や経済活動が寸断されますが、新潟と仙台の空港を結ぶ極めて重要なルートで、道路がしっかり整備されれば、海外から、より安全に、円滑に県南エリアを訪れることが可能となります。現在、「どんでん平スノーパーク」での「雪遊び体験」や「白川湖の水没林」にはインバウンドも含め多くの観光客が一気に訪れています。国内観光客のメインは、北陸エリアですが、国道7号線経由で庄内エリアからも訪れていることから、新潟県下越、庄内、置賜エリアの観光関係者が定期的集まり、この道路が持つポテンシャルを最大限に活かすための観光戦略を話し合うなど地域連携を図っています。新山道の整備は、新潟圏・仙台圏・首都圏からの来訪ハードルを下げ、近隣への来訪波及・消費拡大・雇用拡大効果を高めます。

新潟山形南部連絡道路の一刻も早い建設・整備は、観光による消費を促し、宿泊施設や飲食業、お土産店の売上げだけでなく、地域経済の好循環を生み出すうえで必要・不可欠です。この道路が、地域を繋ぎ、人々を笑顔にする未来への道となることを強く期待しています。

### 【山形県小国町】 小国町立叶水小中学校 教頭 高野佳樹 氏



今年の3月6日の夜、小国町沼沢の国道113号線で大型トラックの衝突事故があり、道路はおよそ11時間にわたり全面通行止めとなりました。翌日は山形県の公立高校入試の日。小国町内の3年生が受験会場に行けなくなる。子どもたちが努力を重ねてきた大切な一日を、交通事情が奪ってしまう…。胸が病む出来事でした。事故の翌日には多くの先生方が学校に集まることができず、通常の学校運営が困難な状況となりました。子どもたちに落ち着いた学びの場を届け続けるためには、安定した道路網の整備が不可欠だと感じています。さらに、地域外との交流は、子どもたちの成長に大きな影響を与える大切な機会です。しかし、交通が不安定であれば、貴重な学びの機会が奪われてしまいます。子どもたちの進路や成長が、一本の道路の脆弱さに左右される現実を突きつけられた思いでした。

教育は社会の土台であり、子どもたちの学びは、安全で安心できる暮らしの上に成り立っています。しかし、今は国道113号線が唯一の幹線道路という状況です。自然災害が発生すれば、すぐに交通が止まり、物流や救急搬送まで滞ってしまい、教育も生活も成り立たなくなってしまう。加えて、地域の大切な移動手段であったJR米坂線は現在も不通が続き、鉄道による移動手段が確保できない現実もあります。

災害に強く安心できる地域を築き、子どもたちが安心して学び、夢に向かって努力できるよう、地域の一員として、そして教育に携わる者として、新潟山形南部連絡道路の早期整備を心から願っています。